



Wealth Management Workstation & Design Your Goal プレゼンテーション

2020年11月6日(金)

株式会社キャピタル・アセット・プランニング

代表取締役 北山 雅一

公認会計士 税理士

日本証券アナリスト協会検定会員

(株)キャピタル・アセット・プランニング

～ 証券コード ～

3 9 6 5

サン キュー 老 後

ビジョン

Fintechにより

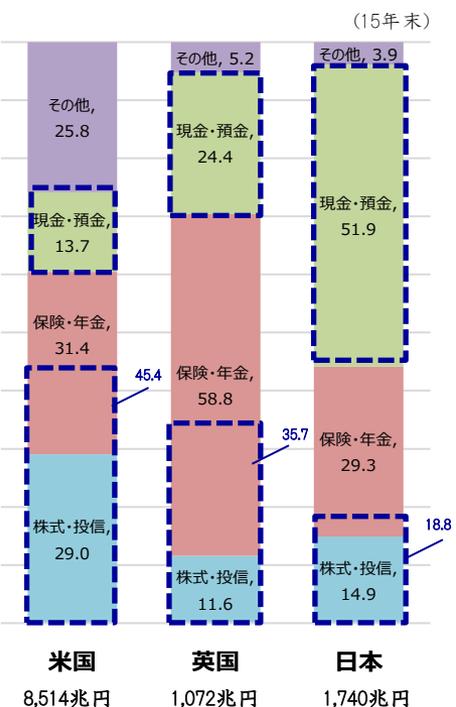


豊かな老後と円滑な相続・事業承継の創造

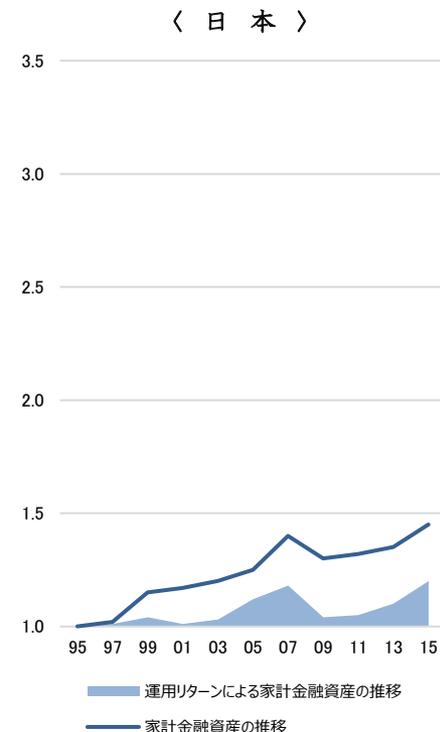
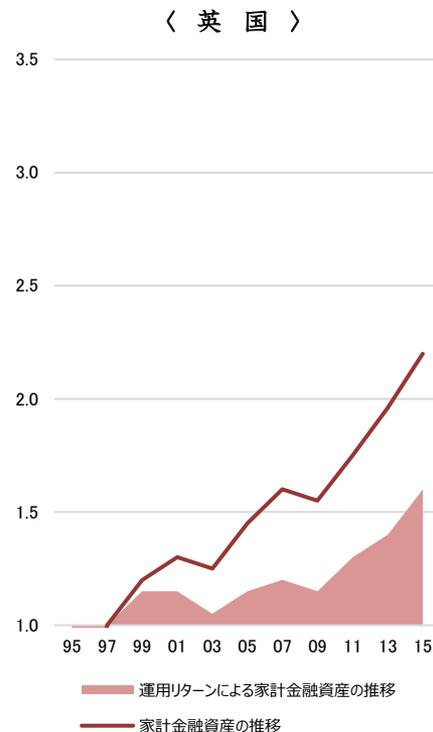
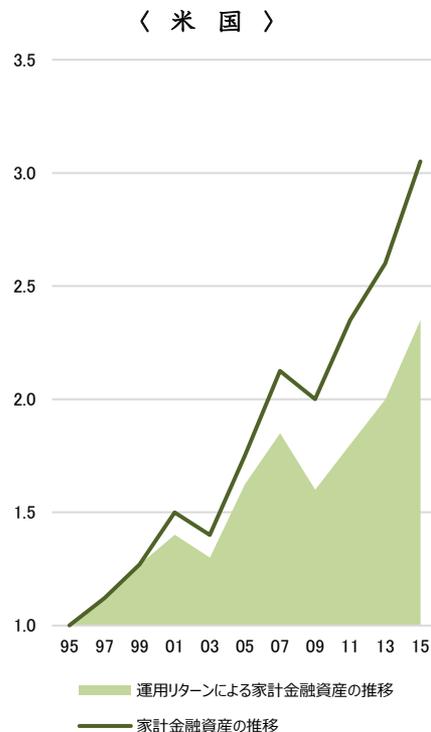
家計金融資産の株式・投資信託の割合が低い

- 我国の家計金融資産(約1,800兆円)の52%(約940兆円)が現預金。
米英に比べ株式・投信等の割合が低く、家計金融資産の伸びは低い水準(運用による増加に大きな差)。
- 近年の推移を見ても、我国における現預金優位の状況は大きく変わっていない。すべてはアセットアロケーションの差。

各国の家計金融資産構成比



20年間の各国の家計金融資産の推移



の部分は間接保有を含む株式・投信投資割合
出典:FRB、BOE、日本銀行資料より金融庁が作成したものを弊社加筆

(注)1995年=1(英国のみ1997年)とする

出典:FRB、BOE、日本銀行資料より金融庁が作成したものを弊社加筆

➡ Fintechにより日本人のアセットアロケーションを改善しないと豊かな老後はない！

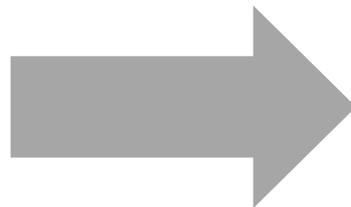


＝ 現象 ＝

毎年50兆円の資産が
相続により次世代へ移転

+

15年後 有価証券の15%が
認知症の個人が保有



＝ 課題 ＝

リスク許容度に合わせて資金運用
(適切なアセットアロケーション)

円滑な財産分割
(兄弟仲良くいかに分けるか?)

相続税納税準備
(10ヶ月以内にいかに支払うか?)

相続税対策
(できれば税額を軽くしたい)

- ラップ?
- 投資信託?(ETF等)
- 一時払い終身保険?
- 一時払外貨建て個人年金保険?



サンキュー老後の世界

最適な組み合わせをCAPシステムで解決

リスク許容度に基づく最適資産配分案を構築したい資産家向け

アセットアロケーション



現役世代の資産形成や退職後の夢・イベントの実現を希望されるゴールベースプラン

Design Your Goal



全資産の見える化を行う富裕層・資産家向け

Wealth Management Workstation



3つのシステムをAWSから提供し、IFAの地位を向上させIFAと顧客のヒューマンリレーションにより日本人のアセットアロケーションを変える

- 毎年約50兆円もの資金が相続により次世代に移動し、相続時代が到来しており、相続を巡る事件件数は上昇傾向にある。事前の対策がとれておらず、家計の一覧を知る瞬間は死ぬ瞬間となっている。
- 個別分析の対策と分析だけではなく、そのファミリーの資産全体に対する全体最適性を追求。



全体最適が実現できるエステートプランシステムが必要



「Wealth Management Workstation」の特長

ポイント1

全資産と見えざる債務の「見える化」を実現

- ✓ 全資産に対する「一次・二次相続税未払額」をシミュレーションし、問題の見える化、ギャップの見える化を行います。
- ✓ 流動性の高い資産から、相続税の納税が行えるのかどうか見える化を行います。

ポイント2

分割方針・納税可能性を「見える化」を実現

- ✓ 相続人一人ひとりの相続税の納税可能性を分析します。引継いだ金融資産で相続税の支払可能かを検証します。
- ✓ 現在のリスク分析と選択すべき対策を表示してヒントの見える化を示します。
- ✓ 相続人の財産の分割割合を検証します。

ポイント3

相続税評価引下げ対策による効果の「見える化」を実現

- ✓ 二次相続まで想定し、配偶者の最適な相続割合を分析します。
- ✓ 贈与税と相続税の負担額を比較し、最適な贈与額を分析します。

「Wealth Management Workstation」の構成

<個別機能のご紹介>



プロフィール

顧客プロフィールを網羅的に実行

- 顧客の年齢、性別、職業、家族情報を登録し、ファイナンシャルゴールを設定します。
- プロフィールの結果、リスク許容度、投資期間、投資経験などに基づくモデルポートフォリオを導き出します。



金融資産管理/評価

公募投資信託・上場株式を評価

- 複数の金融機関での金融資産を一元管理することが可能です。
- 金融資産の評価損益を随時に把握できます。



生命保険・年金保険管理

煩雑な保険契約管理業務を速やかに実行

- 複数の保険会社にわたる保険契約を一元管理することが可能です。
- 生命保険の非課税枠が使い切れていない場合は、アラームにて通知します。



不動産管理・評価

手間のかかる土地・家屋の相続税評価額も迅速に算出

- 宅地、農地に対応。(路線価方式、倍率方式のいずれかを選択)
- 整形地のみならず、不整形地の評価を行うことも可能です。
- 小規模宅地の特例による評価減が最も大きくなる適用面積の計算が可能です。



自社株管理・評価

時間のかかる自社株の相続税評価額も迅速に算出

- 取引相場のない株式の評価、医療法人の出資持ち分の評価に対応。
- ウィザード形式による簡単入力、ステップごとの評価結果表示。
- 1株当たりの類似業種比準価額と1株当たりの純資産価額を試算し、相続税評価額を算出します。同族株主以外のグループについては配当還元価額での評価も可能です。
- 類似業種比準株価は四半期に1度の更新が可能です。



保険分析

時系列で保障額を表示し、分析

- 世帯主、配偶者が現在加入している生命保険、医療保険、介護保険、年金保険の証券を管理し、時系列の保障額を表示します。
- 生命保険は、終身、定期、連増定期、減額定期、収入保障保険等、販売されている生命保険商品のほとんどが入力可能です。



税務分析

家計貸借対照表を中心に、さまざまな角度から現状を分析

- 家計貸借対照表により、家計の資産構成を一覧表示します。
- 各保有資産の相続人を設定できます。
- 相続人別相続財産の割合と相続税額を試算します。
- 相続人別に、引き継いだ財産で納税が可能か否かを試算します。



ポートフォリオ分析・ポートフォリオモデリング

顧客のポートフォリオの変動を随時に把握

- 現状ポートフォリオを時価評価しながら、現在の資産構成とターゲットアロケーションのギャップ分析を行います。
- 現状の個別証券の評価損益、ポートフォリオが負担しているリスク量を評価し、事前に設定されたルールに基づいてアラームを表示します。
- モデルポートフォリオに対してオーバーウェイトしているアセット、アンダーウェイトしているアセットを表示するリバランス戦略の実行を支援。また、ターゲットとするリスクを設定し、資産クラスの入替えを表示するアロケーション戦略の実行を支援します。

財産債務調書機能※

財産債務調書の基礎となる数値を算出

- 登録された保有資産情報を元に、財産債務調書を作成します。
- ※ 当システムで出力した財産債務調書は、提出用としては使用できません。



管理機能

ウェルスマネージャーごとのカスタマイズを可能に

- モデルポートフォリオやビジネスルールなど、ウェルスマネージャーごとのカスタマイズが可能です。
- マニュアルや、弊社発行のケーススタディをダウンロードすることができます。

「見える化」までの2つのプロセス(簡易シミュレーション)

1. 簡易シミュレーション(法定相続割合で試算)

ヒアリング

(20分)



- 家族構成
- ファイナンシャルゴール
- リスク許容度診断
- 保有資産の確認

情報入力

(15分)



ヒアリングした内容を入力

- ご家族情報
- ファイナンシャルゴール
- リスク許容度診断
- 保有金融資産
- その他資産

ご提案

(5分)



- 相続税試算
- 全資産の把握(金融資産、生命保険、不動産、自社株)



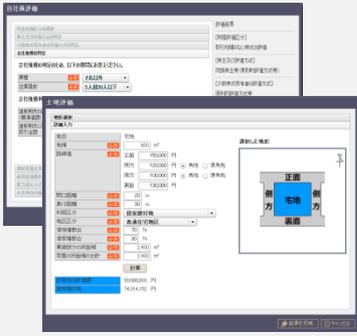
- 相続税納税可能性
- そのために金融資産が必要
- 暦年贈与が必要

- 受取人を指定した生保・年金
- 金融ポートの維持
- 子・孫の口座設定

「見える化」までの2つのプロセス(詳細シミュレーション)

2. 詳細シミュレーション(相続人を指定して試算)

詳細情報入力



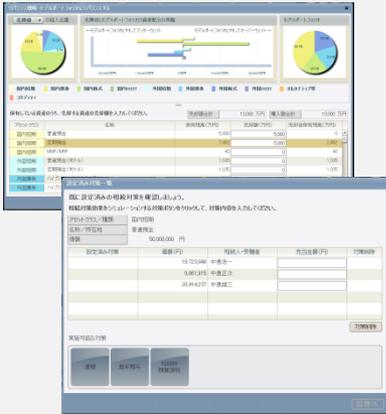
- 各保有資産の詳細情報を入力
- 不動産(小規模宅地の設定も可)、
自社株の相続税評価額の試算が可能
- 各保有資産の相続人を設定
- リスク許容度診断
- 保有資産の確認

現状分析



- ポートフォリオ分析
- 保険分析
- 税務分析

対策



- リバランス、リアロケーション
- 保障が不足した場合の対策と試算
- 贈与、不動産活用、生保対策

ご提案



家計財産簿(簡易版)

- 作成する家計財産簿について簡易版/詳細版の選択が可能

※ 詳細版の家計財産簿は簡易版の内容を包括



家計財産簿(詳細版)

- 対策効果のシミュレーション結果

i. 単一の投資期間:

現代ポートフォリオ理論(MPT)では、すべての投資家が単一の投資期間を持っていると想定する。この制限は、複数の投資期間と複数投資目標を持っているほとんどの富裕層投資家にとっては、非現実的前提。

ii. 狭義のリスクの定義:

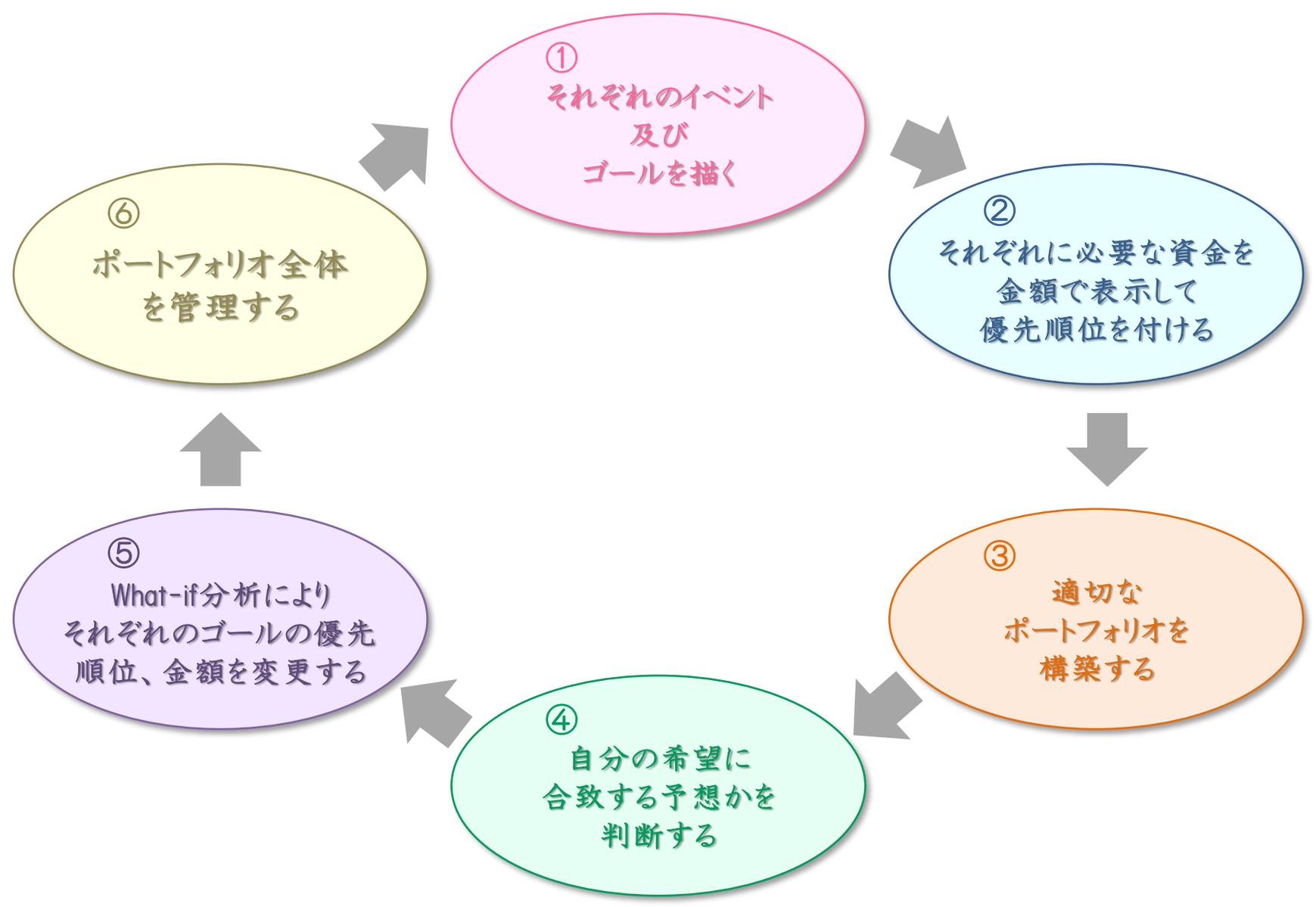
MPTは、リスクを標準偏差で表す。その代わりに、富裕層の個人や家族は特定の投資目標が達成できない可能性をリスクと定義する方が容易に理解できる。

(例)退職後、月額35万円の生活費が達成できない可能性5%未満
90歳時、相続税1,500万円が支払えない可能性65%

iii. 投資目的の優先順位の設定

個人の複数の投資目的について、優先順位を付ける。

ゴールベース戦略に基づくアセットアロケーションの考え方 - 総括



Design Your Goalは、人生100年時代において、お客様の人生におけるさまざまなイベントを実現するため、いかに行動し、いかに投資し運用すべきかを指し示す、ファイナンシャルプランニングシステムです。

お客様が将来実現したいと考えるイベントは、大きく分けて3つのタイプに分類されます。

- ① 人間が一生涯の生活をするなかで最低限必要とする生活費
- ② 余裕があれば実現したい支出イベント
- ③ お子様達など次世代にできれば残したいと考える資金

当システムは将来の夢を3つのゴールに分け、優先順位を付け、その実現可能性を確率的に予想するゴールベースプランニングを実行します。

ケース

太田 一郎氏

上場会社従業員 55歳 妻 由紀子 53歳 長男 27歳 長女 25歳
年収1,100万円 退職一時金1,200万円

保有資産	現預金	1,000万円	終身保険	3,500万円
	国内株式投信	204万円	定期保険	3,000万円
	国内株式	568万円	自宅	2,490万円
	外国債券	500万円		(小規模宅地特例適用後)
	外国株式投信	1,637万円	その他土地	3,716万円
			建物	1,250万円

希望

- ・退職後35万円の生活費確保(90歳まで)
- ・ゴルフ 毎月5万円
- ・海外旅行 5年毎250万円
- ・70歳時 1,500万円の修繕
- ・子供に2,000万円の資金を残したい



今相続が発生すると

一次相続税 625万円
二次相続税 1,196万円
計 1,822万円

太田一郎（デモ用）様

総合資産管理分析

ご家族の状況

太田 一郎（デモ用）	昭和40年3月18日	55歳	男性	太田 由香	平成7年5月1日	25歳	女性
太田 由紀子	昭和42年7月11日	53歳	女性				
太田 次郎	平成5年5月1日	27歳	男性				

相続発生時期 一次 0 年後 二次 0 年後

ファイナンシャルゴール

お客様からご回答いただいた財産に係わる目標、ご希望は以下のとおりです。

家計貸借対照表（現状分析） - 資産負債の全体像の把握 -

まず、現在お客様、ご家族が保有されているすべての資産と負債を時価で評価して、可視化し、その全体像を把握しましょう。家計貸借対照表を作成することにより、見えざる負債である一次、二次相続未払金が試算され、将来の納税に対し、準備が必要であることを確認しましょう。

（単位：万円）



将来の相続税の納税が家族全体の金融資産から見て可能か否かを分析します

もし今一次相続、二次相続が発生したら預貯金、有価証券、死亡保険金、退職貯蓄で相続税が納付可能であることがわかります。

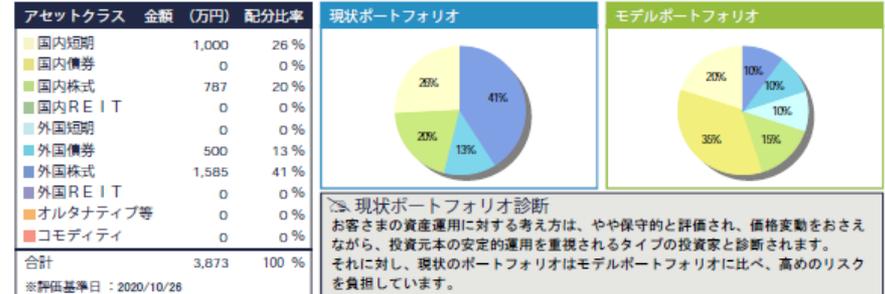
流動比率 571 % 相続税の割合 8.3 %

※一次相続未払金は今一次相続が発生するとすれば、納付することになる相続税の納付予想額です。
 ※二次相続未払金は今一次相続が発生し、その後二次相続が発生し、法定相続割合で相続する場合の納付予想額です。
 ※流動比率（%）… (預貯金+有価証券+生命保険+年金保険(死亡保険金)+退職貯蓄) / (一次相続未払金+二次相続未払金+葬儀費用+短期借入金) × 100
 ※相続の割合（%）… (一次相続未払金+二次相続未払金) / 総資産額 × 100

会社名 株式会社キャピタル・アセット・プランニング
 担当者名 公認会計士 北山雅一

ご家族がお持ちの金融ポートフォリオの分析

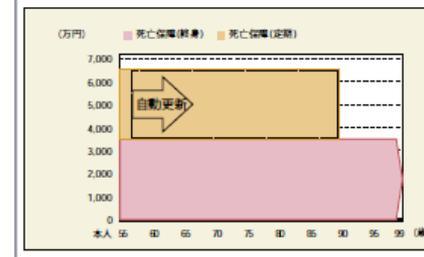
お客様がお持ちの預貯金、株式、債券、投資信託を国内外の短期金融資産、株式、債券等のアセットクラスに区分して時価で評価しました。リスク許容度から導かれるモデルポートフォリオとお客様の現在のポートフォリオとの差異を確認しましょう。



生命保険の分析（死亡保障の推移）

ご本人さまに万が一のことがあった場合、残されたご家族の保障はどうなるのでしょうか。ここでは現在ご契約の生命保険契約に基づき、ご本人さまに万が一のことがあった場合の保障額の推移について分析を行います。

死亡保障グラフ（ご本人さまに万が一のことがあった場合）



死亡保障内容

現在の死亡保障	金額
うち病気になる死亡・高度障害時	6,500万円
死亡保険金 一時受取	6,500万円
死亡保険金 年金受取（初年度）	0万円
うちけがによる死亡・高度障害時	0万円
所定の要介護状態のとき	0万円

死亡保障に係わる診断

ご本人さまに現在、万が一のことがあった場合の保障額は6,500万円です。

ご本人さま平均余命時に万が一のことがあった場合の保障額は6,500万円です。

個人年金保険の分析（老後保障の推移）



ライフプランの目標 家族に残したい資金

WEALTH MANAGEMENT WORKSTATION

2 | ライフプランの目標

ライフプラン終了時に、残したい金額を入力して下さい。

必須 金額

2,000 万円

0 万円

2,000 万円

2,500

5,000

7,500

10,000

10,000 万円

90歳までに 2,000万円残したい

オオタ
① 太田一郎 様 55歳

STEP
2 / 8
ライフプランの
目標

- 1. 家族情報
- 2. ライフプランの目標
- 3. 収入情報
- 4. 支出情報
- 5. ライフイベント情報
- 6. 保有金融資産状況
- 7. 生命保険情報
- 8. 運用スタイル

シミュレーション結果を見る

トップに戻る

< 前に戻る

↓ 一時保存

⏵

ライフプランの目標 最低限必要とする生活費



WEALTH MANAGEMENT WORKSTATION

4 支出情報 ①生活費について

住居費と教育費を除いた **月額**の生活費を入力してください。

[統計値を入力](#)

必須 退職前

50 万円

10 万円 33 55 78 100

必須 退職後

35 万円

10 万円 33 55 78 100

オオタ
太田一郎 様 55 歳

STEP
4/8
支出情報

- ✓ 1. 家族情報
- ✓ 2. ライフプランの目標
- ✓ 3. 収入情報
- 4. 支出情報
- 5. ライフイベント情報
- 6. 保有金融資産状況
- 7. 生命保険情報
- 8. 運用スタイル

シミュレーション結果を見る

[トップに戻る](#) [前に戻る](#) [一時保存](#)

⏴

余裕があれば実現したいイベント支出の優先順位



5 | ライフイベント情報 ① ライフイベント実現のための資金

WEALTH MANAGEMENT WORKSTATION

任意 今後のライフイベントについて必要な情報を入力してください。

+入力項目を追加する

オオタ イチロウ
① 太田一郎 (せら 様 55 歳)

STEP
5 8
ライフイベント
情報

- ✓ 1. 家族情報
- ✓ 2. ライフプランの目標
- ✓ 3. 収入情報
- ✓ 4. 支出情報
- 5. ライフイベント情報
- 6. 保有金融資産状況
- 7. 生命保険情報
- 8. 運用スタイル

シミュレーション結果を見る

優先順位

マイカー購入

優先順位

旅行

優先順位

趣味

優先順位

健康・美容

優先順位

お子様の習い事

優先順位

自宅リフォーム

優先順位

老人ホーム入居費用

優先順位

その他

🏠 トップに戻る

◀ 前に戻る

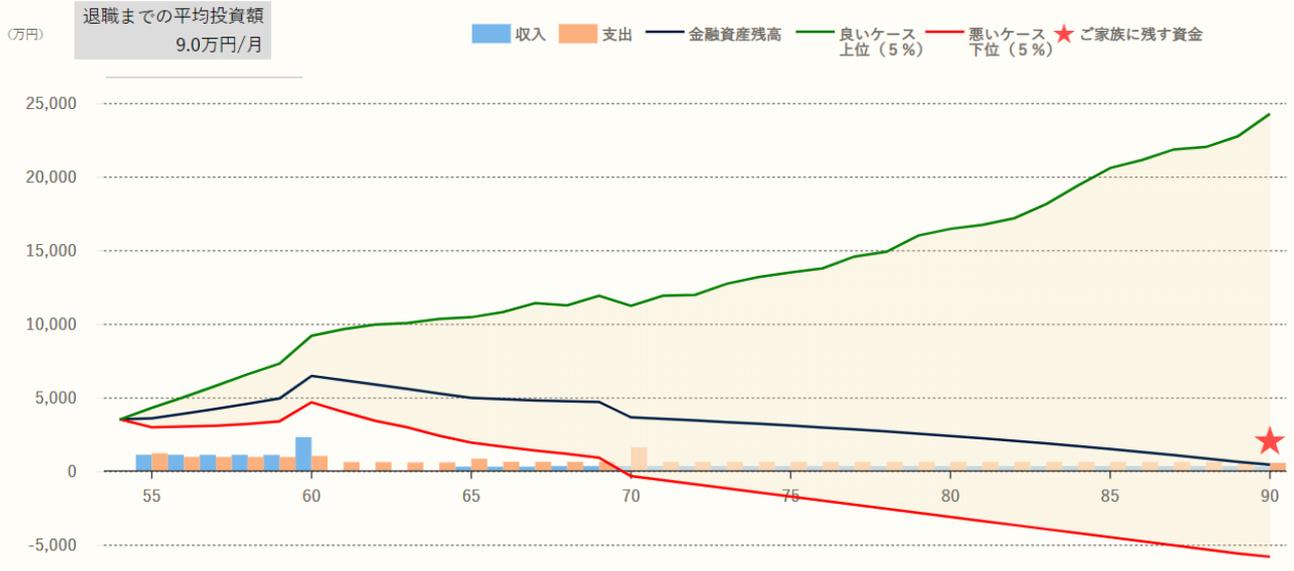
📄 一時保存



モンテカルロ法による金融資産の将来運用可能性予想

5 年間収支と金融資産残高の推移 ライフプランシミュレーション結果

WEALTH MANAGEMENT WORKSTATION



シミュレーション結果

資産運用の成果が予想される平均的ケースで推移した場合、現時点では資金が不足する可能性は低いと考えられますが、お客様が希望されるライフプランをすべて実現することは難しい状況です。なお、現状のアセットアロケーションで90歳まで運用した時の金融資産残高は428万円と予想されます。

- オオタ イチロウ
太田一郎 (せら様 55歳)
- シミュレーション結果
- CHAPTER
- 生涯収支サマリー
 - 必要保障額サマリー
 - ライフイベントの実現可能性
 - 現在のアセットアロケーション
 - 年間収支と金融資産残高の推移
 - ゴールベースプランニング (現状)
 - 資産運用/必要保障額のご提案

トップに戻る

前に戻る



6 ゴールベースプランニング (現状) ライフプランシミュレーション結果

WEALTH MANAGEMENT WORKSTATION

オオタ イチロウ
① 太田一郎 (せら 55歳)

シミュレーション結果

CHAPTER

- 生涯収支サマリー
- 必要保険額サマリー
- ライフイベントの実現可能性
- 現在のアセットアロケーション
- 年間収支と金融資産残高の推移
- 6. ゴールベースプランニング (現状)**
- 資産運用 / 必要保障額のご提案

最優先に確保	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
 基本生活費 55歳~90歳 21,615 万円 ★★★★★☆ (90%)	 旅行 55歳~70歳 5年毎 750 万円 ★★★★★☆ (80%)	 趣味 55歳~90歳 1年毎 2,100 万円 ★★★★★☆ (60%)	 自宅リフォーム 70歳 1回のみ 1,000 万円 ★★☆☆☆☆ (50%)
 マイカー購入 0 万円 ☆☆☆☆☆	 健康・美容 0 万円 ☆☆☆☆☆	 お子様のお習い事 0 万円 ☆☆☆☆☆	 老人ホーム入居費用 0 万円 ☆☆☆☆☆

[入力画面に戻る](#)
[ライフイベントを見直す](#)

[トップに戻る](#)

[前に戻る](#)



What-if 分析

- ① ポートフォリオを変更したら
- ② 投資額を変更する
- ③ 希望老後生活費・イベント支出予算を変更する
- ④ イベントの優先順位を変更する



イベントの達成可能性はいかに変化するか？

SECTION 3 年間収支と金融資産残高の推移 [明細表] 1/3

(単位：万円)

年齢	ご本人様(歳)		配偶者様(歳)		55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	
	合計	退職前	退職後	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64		
収入	本人	給与収入・事業収入・退職金等	7,781	5,481	2,300	1,100	1,099	1,098	1,094	1,090	2,300	0	0	0	0	0	0	
	本人	公的年金	6,780	0	6,780	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	295	295	295
		個人年金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	配偶者	給与・事業等収入・退職金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		公的年金	1,792	0	1,792	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	配偶者	個人年金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	[今後確保できる収入] 合計		16,354	5,481	10,872	1,100	1,099	1,098	1,094	1,090	2,300	0	0	0	0	295	295	295
支出	生活費	15,420	2,400	13,020	480	480	480	480	480	420	420	420	420	420	420	420	420	
	住居費	3,456	480	2,976	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	
	教育費																	
	借入金等返済資金																	
	税金・社会保険料	2,739	1,577	1,163	315	318	317	314	312	192	24	24	4	4	10	46	43	
	その他支出																	
	[基本生活費] (小計)		21,615	4,457	17,159	891	894	893	890	888	708	540	540	520	520	526	562	559
	旅行	750	250	500	250	0	0	0	0	0	250	0	0	0	0	250	0	0
	自宅リフォーム	1,000	0	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	趣味	2,100	300	1,800	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
[ライフイベント費用] (小計)		3,850	550	3,300	310	60	60	60	60	310	60	60	60	60	310	60	60	
[今後必要となる支出] 合計		25,465	5,007	20,459	1,201	954	953	950	948	1,018	600	600	580	580	836	622	619	
収支差額					▲101	145	144	144	143	1,282	▲600	▲600	▲580	▲580	▲541	▲327	▲324	
金融資産残高推移					3,566	3,883	4,214	4,561	4,923	6,443	6,153	5,849	5,551	5,238	4,949	4,860	4,770	

SECTION 3 年間収支と金融資産残高の推移 [明細表] 2/3

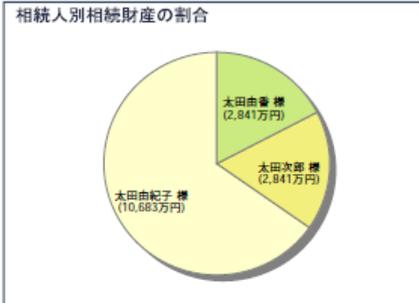
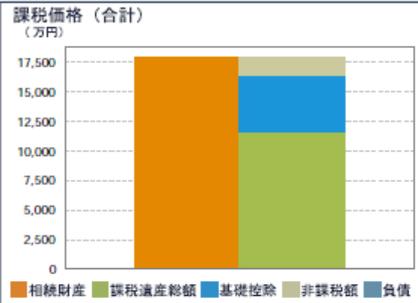
(単位：万円)

年齢	ご本人様(歳)		配偶者様(歳)		68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
	合計	退職前	退職後	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	
収入	給与収入・事業収入・退職金等	7,781	5,481	2,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本人	公的年金	6,780	0	6,780	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
	個人年金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	配偶者	給与・事業等収入・退職金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	公的年金	1,792	0	1,792	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78
	個人年金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	[今後確保できる収入] 合計	16,354	5,481	10,872	334	334	334	334	334	334	334	334	334	334	334	334	334
支出	生活費	15,420	2,400	13,020	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420
	住居費	3,456	480	2,976	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96	96
	教育費																
	借入金等返済資金																
	税金・社会保険料	2,739	1,577	1,163	45	36	36	36	36	36	35	35	35	35	34	35	35
	その他支出																
	[基本生活費] (小計)	21,615	4,457	17,159	561	552	552	552	552	552	551	551	551	551	550	551	551
	旅行	750	250	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自宅リフォーム	1,000	0	1,000	0	0	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	趣味	2,100	300	1,800	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
	[ライフイベント費用] (小計)	3,850	550	3,300	60	60	1,060	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
[今後必要となる支出] 合計	25,465	5,007	20,459	621	612	1,612	612	612	612	611	611	611	611	610	611	611	
収支差額				▲287	▲278	▲1,278	▲278	▲278	▲278	▲277	▲277	▲277	▲277	▲276	▲276	▲276	
金融資産残高推移				4,713	4,662	3,608	3,503	3,393	3,279	3,159	3,034	2,903	2,766	2,623	2,473	2,315	

太田一郎（デモ用）様

総合資産管理分析

▶相続財産及び相続税に係わる分析 ～一次相続～
一次相続発生時期を 0 年後とした場合
一次相続発生時の課税価格および相続税の試算結果を確認しましょう。

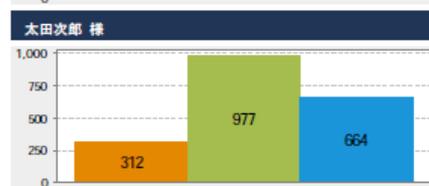
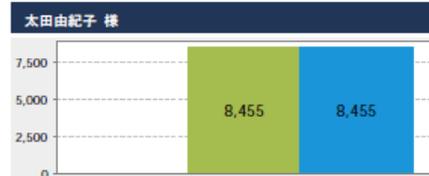


▶相続人別納税可能性分析（現状分析）

相続人ごとに相続税の納税が可能か否かを分析します。

- お持ちの金融資産で、相続税の納税は可能と予想されます。
- 全ての相続人ともに、相続税の納税は可能と考えられます。

納税予想額 納税準備 余剰不足 葬式費用 短期借入金 (単位：万円)



その他合計

▶お客さまの資産全体に係わる診断結果

診断結果はお客さまが現在保有されている資産、保険について留意すべき診断内容を表示しています。
お客さまにご回答いただいたご家族の状況、保有資産の状況に基づいて分析を行い、①金融ポートフォリオ②保険③税務の3つの観点から今後考慮すべき対策をご提案致します。

分析対象	診断結果	ご考慮されるべき対策
金融ポートフォリオ	現在のポートフォリオがお客様に適切な資産配分案から乖離している可能性があります。	お客様のリスク許容度にあったアセットアロケーションの再設計が必要です。
	お客様が負担可能なリスクに比べ、大きなリスクを負担している可能性がありますといえます。	国内外の株式債券の投資比率を下げ、ポートフォリオのリスクを下げることを考えてはいかがでしょうか。
	現状のポートフォリオは、伝統的資産クラス以外への投資がない状況です。	オルタナティブ資産、コモディティ、REITへの投資の余地がないか、再度チェックしましょう。
生保・個人年金		
税務	30歳未満のお子さま、お孫さま、ひ孫さまがいらっしゃいます。	『教育資金の一括贈与に係る贈与税の非課税措置』を利用することで、最大1,500万円まで非課税で教育費の贈与が可能です。ご検討されてはいかがでしょうか。

太田一郎（デモ用）様

一次相続における保有財産明細

1/1

資産名等	備考	評価額	相続人			
			太田 由紀子 様	太田 次郎 様	太田 由香 様	
(現金)						
普通預金	国内短期	10,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000	
小計		10,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000	
(有価証券)						
One ETF 日経225	国内株式	2,044,478	1,022,239	511,119	511,119	
株式会社日立製作所	国内株式	5,680,000	2,840,000	1,420,000	1,420,000	
外国債券	外国債券	5,000,000	2,500,000	1,250,000	1,250,000	
野村グローバルSRI 100	外国株式	16,377,750	8,188,875	4,094,437	4,094,437	
小計		29,102,228	14,551,114	7,275,557	7,275,557	
(生命保険)						
	メットライフ生命保険株式会社	35,000,000	35,000,000			
	朝日生命保険相互会社	30,000,000	30,000,000			
小計		65,000,000	65,000,000	0	0	
(土地)						
土地 1 ※小規模宅地等の評価減の特例適用	430.00㎡	24,900,000	12,450,000	6,225,000	6,225,000	
土地 2	400.00㎡	37,161,600	18,580,800	9,290,400	9,290,400	
小計		62,061,600	31,030,800	15,515,400	15,515,400	
(建物)						
土地 1	300.00㎡	12,500,000	6,250,000	3,125,000	3,125,000	
小計		12,500,000	6,250,000	3,125,000	3,125,000	
財産合計		178,663,828	121,831,914	28,415,957	28,415,957	
負債合計		0	0	0	0	
生命保険非課税額		15,000,000	15,000,000			
死亡退職金非課税額		0				
非課税額合計		15,000,000	15,000,000	0	0	
課税価格		163,661,000	106,831,000	28,415,000	28,415,000	
相続割合			65.28%	17.36%	17.36%	
基礎控除		48,000,000				
課税遺産総額		115,661,000				
相続税額		18,023,000	11,764,654	3,129,173	3,129,173	
税額加算		0	0	0	0	
税額控除		11,764,654	11,764,654	0	0	
納付税額		6,258,000	0	3,129,000	3,129,000	

太田一郎（デモ用）様

二次相続における保有財産明細

1/1

資産名等	備考	配偶者財産	評価額	相続人		
				太田 次郎 様	太田 由香 様	
(現金)						
普通預金	国内短期		5,000,000	2,500,000	2,500,000	
小計			5,000,000	2,500,000	2,500,000	
(有価証券)						
One ETF 日経225	国内株式		1,022,239	511,119	511,119	
株式会社日立製作所	国内株式		2,840,000	1,420,000	1,420,000	
外国債券	外国債券		2,500,000	1,250,000	1,250,000	
野村グローバルSRI 100	外国株式		8,188,875	4,094,437	4,094,437	
小計			14,551,114	7,275,557	7,275,557	
(生命保険)						
	メットライフ生命保険株式会社		35,000,000	17,500,000	17,500,000	
	朝日生命保険相互会社		30,000,000	15,000,000	15,000,000	
小計			65,000,000	32,500,000	32,500,000	
(土地)						
土地 1 ※小規模宅地等の評価減の特例適用	430.00㎡		12,450,000	6,225,000	6,225,000	
土地 2	400.00㎡		18,580,800	9,290,400	9,290,400	
小計			31,030,800	15,515,400	15,515,400	
(建物)						
土地 1	300.00㎡		6,250,000	3,125,000	3,125,000	
小計			6,250,000	3,125,000	3,125,000	
財産合計			121,831,914	60,915,957	60,915,957	
負債合計			0	0	0	
生命保険非課税額			0			
死亡退職金非課税額			0			
非課税額合計			0	0	0	
課税価格			121,830,000	60,915,000	60,915,000	
相続割合				50.0%	50.0%	
基礎控除			42,000,000			
課税遺産総額			79,830,000			
相続税額			11,966,000	5,983,000	5,983,000	
税額加算			0	0	0	
税額控除			0	0	0	
納付税額			11,966,000	5,983,000	5,983,000	

太田 一郎 (デモ用) 様

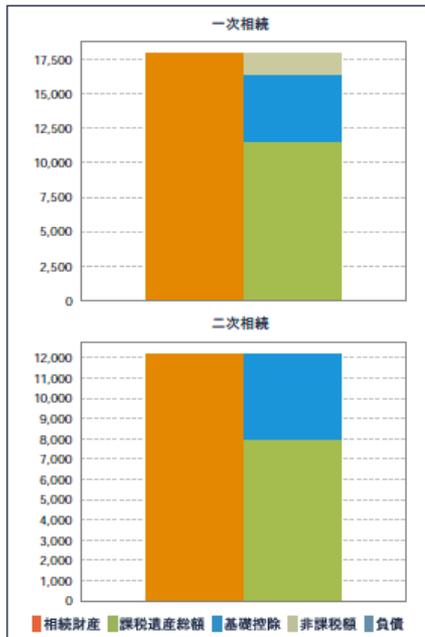
暦年贈与額最適化分析

ご家族の情報 (ご本人様+法定相続人)

太田 一郎 (デモ用)	昭和40年3月18日	55歳	男性
太田 由紀子	昭和42年7月11日	53歳	女性
太田 次郎	平成5年5月1日	27歳	男性

太田 由香	平成7年5月1日	25歳	女性

課税価格試算



(単位: 万円)

課税価格の試算		
	一次相続	二次相続
預貯金	1,000	7,000
有価証券	2,910	1,455
生命保険	6,500	0
年金保険	0	0
退職慰労金	0	0
不動産	7,456	3,728
自社株	0	0
その他財産	0	0
相続財産合計	17,866	12,183
葬儀費用	0	0
借入金	0	0
負債合計	0	0
生命保険金非課税額	1,500	0
死亡退職金非課税額	0	0
非課税額合計	1,500	0
課税価格	16,366	12,183
基礎控除	4,800	4,200
課税遺産総額	11,566	7,983

贈与計画の内容

贈与を受ける人数	贈与期間	適用される贈与税	配偶者の相続割合	法定相続人
2人	10年	特例税率	65.28%	3人

適用される贈与税について、平成27年1月1日より、直系尊属 ※1から贈与により財産を取得した受贈者については「特例税率※2」が適用されます。それ以外の場合は、「一般税率」が適用されます。
※1 直系尊属とは、自分より上の世代の直系親族、父母や祖父母など。 ※2 贈与を受けた年の1月1日時点で20歳以上の受贈者の場合に適用。

暦年贈与額最適化の分析結果

最適贈与額は **310**万円です。

2人の方に 一人当たり年間 **310**万円、合計 **620**万円を
10年間贈与すると、納税額は **704**万円軽減されます。

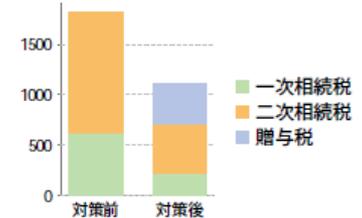
毎年、一人当たりの贈与税額は **20**万円、合計 **40**万円です。

納税額の比較

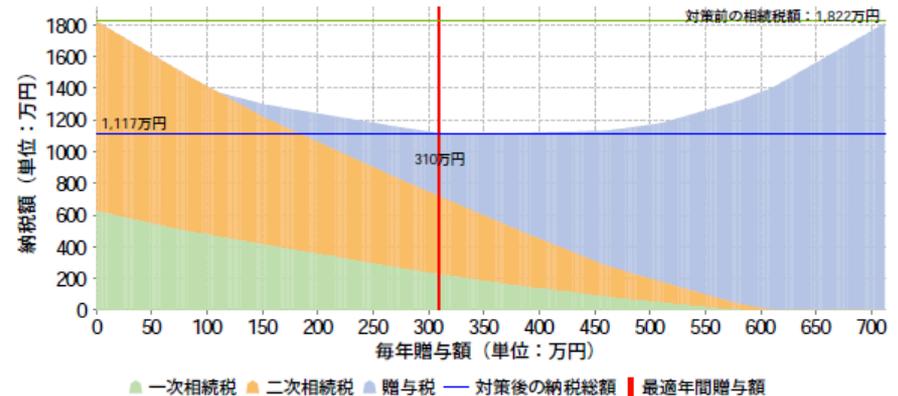
暦年贈与対策前後の納税額を確認しましょう。

(単位: 万円)

	贈与対策前	贈与対策後	差額
相続税	1,822	717	1,104
一次相続	625	227	398
二次相続	1,196	490	706
贈与税	0	400	-400
合計	1,822	1,117	704



暦年贈与対策の効果



ご清聴ありがとうございました